

012.5.5.08

【第三種郵便物認可】

# 温暖化「当面は小休止」

## 海洋の自然変動、上昇抑制

独チーム予測

科学

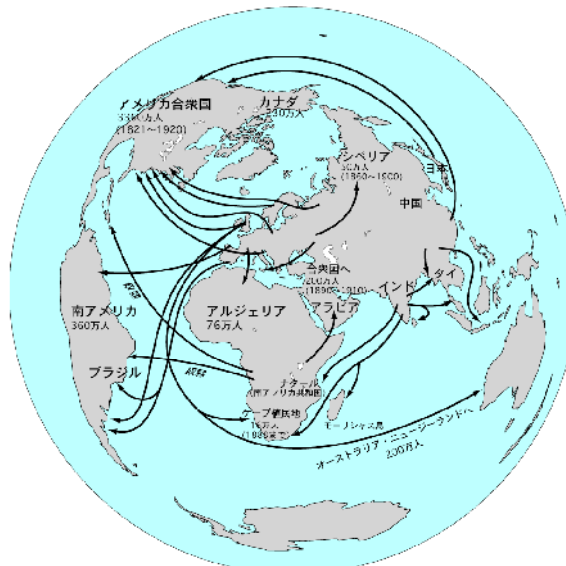
地球温暖化は今後十年、  
近々小休止し、平均気温  
は上昇しない。ドイツの  
研究チームが、この  
予測をまとめ、英科学  
誌「ネイチャー」最新号に  
発表した。気候の自然変動  
が影響し、温暖化はC  
O<sub>2</sub>増などによる温暖  
化が当分の間は打ち消さ  
れるため。北米など地域  
によってはわずかながら  
寒冷化するという。  
ライプニッツ海洋科学  
研究所などのチームは、コ  
ンピュータの模擬実験  
で、今後十一年の気温  
などの推移を予測。温暖  
化ガスの排出が鈍くも  
の、海洋の数十年間期の  
自然変動などが寒冷化を  
促す方向に働いたため、  
二〇二〇年代半ばまでは平  
均気温はほとんど下がら  
ないとの結果が出た。  
地域別には北米や西欧  
でやや気温が下がる。そ  
の後、自然変動によるC  
O<sub>2</sub>は十二世紀末まで  
影響は温暖化を促す方向  
に反転し、平均気温は急  
に上昇する。ただ、どのま  
じりも、温暖化の進行が見  
えなくなることはない。

うに温度が上がるかや、  
変動の地域差についての  
詳しい研究はこれから。  
今回の結果はその先駆け  
となる。  
地表の平均気温は第一  
に、人間活動によると  
見られる。温暖化の進行が見  
えなくなることはない。

経 三十年程度完了する  
比較的小規模な気候変動を  
正確に予測する作業に各  
国の研究チームが取り組  
んでいる。気候モデルの  
違いで結果には幅がある  
と見られる。

日経新聞 2008年5月5日

## ◆ 国際的な人口移動 (1820~1910)



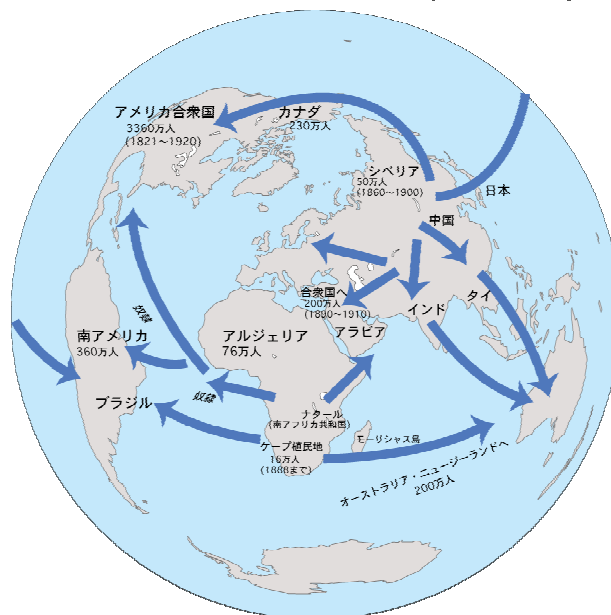
### ヨーロッパの人口爆発による人口移動

産業革命によるヨーロッパの人口爆発が20世紀の世界戦争の根本原因だった。

## 人口圧、人間の拡散、戦争、イデオロギー

- 1 産業革命(ヨーロッパの小地域で人口爆発→世界中へ人間の拡散、植民地、戦争の世紀へ、イデオロギー)
- 2 日本も同じ例(太平洋戦争へ;原因は人口圧)
- 3 21世紀の問題は地球規模の人口圧、中心はアジア(爆弾)

### ◆ 国際的な人口移動 (21世紀)



中国・インド・アジアの人口爆発による人口移動

## 3つのシナリオ

- 1 このまま進む→ローマクラブのシナリオ通り
- 2 トップダウンで軍事覇権国家が出現する場合(ロシア、中国、インド、アメリカの闘争;二極化或いは多極化)→**戦争の時代**へ
- 3 世界民主主義連合国家を中心とした新体制主導の**世界人口縮小計画**

## アジアは世界の火薬庫

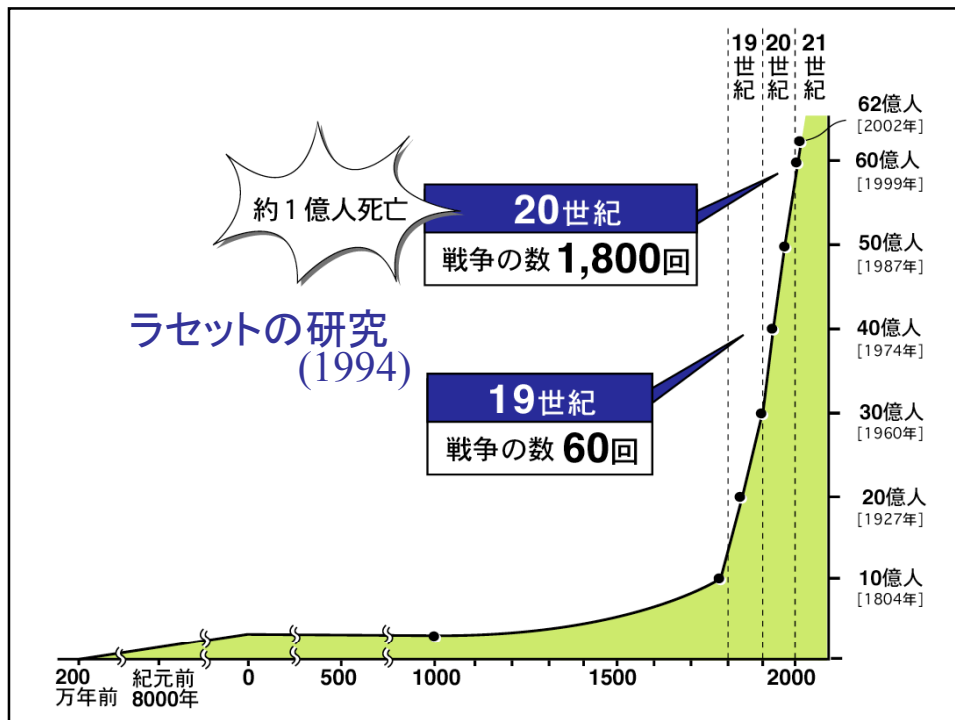
- 1 ローマクラブは気候一定を仮定
- 2 もし寒冷化が起きると全てが前倒しになる。その例が2008年の寒波(中国)
- 3 2008. 1月中旬、**50年ぶり**の大雪寒波(豚、鶏中心に7000万匹の家畜が死んだ、1億人が被災、野菜は国土の1/3で雪と低温による被害;貿易黒字64%減、前年2月比)
- 4 気候が政治、経済、文明を支配(チベットの騒乱)
- 5 中央アジアの変動:夏場に起きれば冷害(満州、黒龍江省の米作、黄土地帯の被害)、中央アジアの民族大移動開始、戦争、疾病の流行;政情の不安定)

## 日本はどうなる

- 1 **大量の難民流入**をどうする(飛鳥時代＝約50万人;21世紀＝2000万人?)
- 2 **食糧**の確保の困難
- 3 **戦争**に巻き込まれる?

## 第2次世界人口移動

- 1 21世紀前半の課題
- 2 中国、インド、中央アジア、中東、北アフリカの**人口爆発**
- 3 寒冷化が引き起こす**食糧難、暴動、政治不安、難民増加と移動**(日本は何人受け入れられるか)
- 4 軍国覇権主義的弾圧



## 21 世紀の世界史予測 (無策の場合)

- 1 2010 年: 寒冷化が引き金となった中央アジアの動乱の開始 (中国西部、東北部の砂漠化、食糧不足、民族移動)、中国と周辺国家との対立、中東、北部アフリカの砂漠化加速、食糧難と政情不安 → 国際難民の急増
- 2 2020 年: 食糧戦争、資源戦争、北極海の結氷、油田掘削の困難と石油の高騰深刻に、多極世界構造 (中国、ロシア、EU、アメリカ、その他 NATO 拡大版 vs 非 NATO 国家群) → 人類史最大の戦争の世紀へ加速、伝染病の多発、微生物世界の爆発的進化、空気と水の化学的汚染と大型生物への深刻な影響
- 3 2035 年: 世界人口の打ち止め (75 億人から急減に向かう): 世界戦争の本格化と多極世界へ
- 4 2050—2100 年: 戦争による世界人口の緩やかな縮小へ、世界人口は 30—40 億人で収束

## ではどうすればよいのか？

- 1 意識(一人学際):現代のデカルトになろう(総合的文明論の理解、知識の体系を理解、**人類の遠未来のゴールの理解、ヒューマニズムに代わる哲学の確立**)
- 2 組織的対応の方策:宇宙地球システム変動(人間圏の拡大):より広い空間と長い時間座標の中で考える
- 3 **100年持続可能社会学会**の設立

## 石油の使い方

- 1 人類史のバブル時代150年の終末期が始まった(後20-30年で終わり)
- 2 石油は他の資源とは異質
- 3 電気に変える(火力発電)のは止める
- 4 エネルギーをできるだけセーブして、世界人口縮小計画を計画的に進める
-

## 京都宣言の後始末

- 1 先進国の中でどの国が最初に脱落するかのゲーム  
(**日本は最もセコイ成金国家、稼いだ金を還元せよ**)
- 2 炭素排出枠購入(ロシア、アルゼンチン、モンゴル、東南アジア他)、企業への割り当て(5000億円、企業の活力低下)
- 3 官僚と政治家(明日の利益しか考えない)
- 4 科学者共同体(自ら日本を崩壊させる道筋を推奨)
- 5 石油の価格高騰、原料(鉄鉱石、石炭、天然ガス、ロシアのガスAPEC)高騰、円高(企業を圧迫)→**日本の心臓を疲弊(3/5人の食糧なし)**
- 6 地球温暖化二酸化炭素犯人説を信じるな！科学で実証されていないと宣言し、対応策を延ばせ！

## 作戦

- 1 温暖化問題が根本原因(使える)→科学者に聞いた→違うではないか？
- 2 根本問題は2020年問題、世界人口の計画的縮小にある→省エネが日本の根本戦略で実績をこれだけ積み上げてきた→先進国は日本に追いつく努力目標を約束せよ！
- 3 それができるまで日本は待つ
- 4 人類史全体の中で現状を把握すると、我々がなすべき課題は自明、資源の有効活用、引き伸ばし作戦、平行して人口の計画的縮小(日本は4000万人まで)
- 5 寒冷化までに計画を現実にも！
- 6 日本発の新しい思想を世界へ発信せよ！
- 7 人類史1万年の中で起きる最大の悲劇の回避に貢献
- 8 マスコミの役割が変化、権力の監視から、大衆の啓蒙へ、しかも全地球的に！

## 温暖化問題の真相

- 1 EUの総合戦略の元で日本は翻弄されている
- 2 化石燃料の割り当て条約へ
- 3 1922年の海軍軍縮条約(英米日伊仏間で日本を押さえ込む、先進国では海軍の予算が全体を圧迫、滝、2007)
- 4 ヨーロッパの戦略(枯渇する資源をどう確保できるのか)

## 長期的施策

1. 人口の計画的縮減(世界:30-40億人、日本:4,000万人)
2. 循環型持続可能社会(化石燃料なし)の構築→環境ビジネス
3. 超政府とユニオン統合:アジア・ユニオンを牽引、  
防衛、資源の配分、食糧の配分問題など。  
ただし、その前に民主化の相当な進行が必要。
4. 軸のぶれない外交戦略の展開:例 対 ロシア, 中国
5. ヒューマニズムを超える総合的文明論の構築
6. 環境問題(空気と水の化学汚染, 6000種類の新物質/年の規制、他)の解決



## 短期的施策(日本)

1. **食糧の安定確保(備蓄)(休耕地)**
2. 都市計画の見直し:“選択と集中” 例 コンパクトシティー
3. **移民・難民流入対策**
4. 資源・エネルギーの安定確保  
原子力発電, クリーンエネルギー,  
資源のリサイクル(5R)
5. 科学者共同体, 代議士, 行政, マスコミ, 市民が一体となった新組織:「**100年持続可能社会学会**」設立

## 世界の動向

- 1 アメリカ、EUの二極構造からロシア、中国(両国は反自由主義国家をまとめてその頂点に立つ努力、ODAと引き換えに武器輸出、死の商人外交)の多極構造へ
- 2 **世界人口の効率のよい減少政策(石油エネルギーの経済的な消費;引き伸ばし作戦)→世界連合国家体制**
- 3 **世界民主主義連合**の必要性(国連が役に立たないから)
- 4 **都市の問題**(現在、世界人口の50%が都会生活、都市設計と省エネ政策)

## 対世界(そうならない為に)

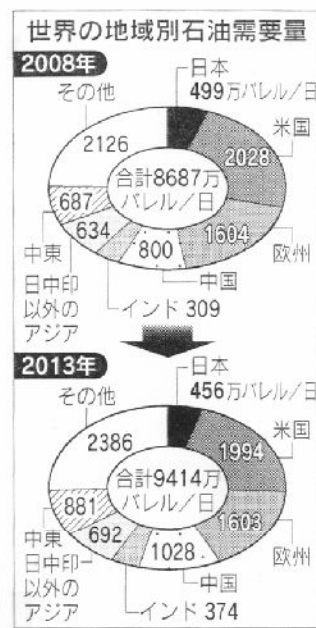
- 1 エネルギー問題(**持たざる国**の宿命)
- 2 食料自給(**持続可能社会**へ、8000万人の食糧確保)
- 3 **省エネルギー政策**(2020年問題)
- 4 炭素排出枠問題(京都宣言の後始末)
- 5 軍備(**NATOの世界版:集団防衛体制**へ日本主導)

## 京都宣言の後始末

- 1 先進国の中でどの国が最初に脱落するかのゲーム(**日本は最もセコイ成金国家、稼いだ金を還元せよ**)
- 2 炭素排出枠購入(ロシア、アルゼンチン、モンゴル、東南アジア他)、企業への割り当て(5000億円、企業の活力低下)
- 3 官僚と政治家(明日の利益しか考えない)
- 4 科学者共同体(自ら日本を崩壊させる道筋を推奨)
- 5 石油の価格高騰、原料(鉄鉱石、石炭、天然ガス、ロシアのガスAPEC)高騰、円高(企業を圧迫)→**日本の心臓を疲弊(3/5人の食糧なし)**
- 6 地球温暖化二酸化炭素犯人説を信じるな! 科学で実証されていないと宣言し、対応策を延ばせ!

## 日本の科学者、マスコミ、官僚、政治家が日本を滅ぼす

- 1 地球温暖化問題
- 2 本当に重要で深刻な問題は2020年問題
- 3 兆候がおき始めた(石油価格の高騰、食糧戦争の開始)
- 4 科学者、マスコミ、官僚、政治家が日本を滅ぼす



## アンケート集計表(全体)

シンポジウム「論争 地球温暖化」事務局

問1 本日のシンポジウムを聴いて、人為的地球温暖化説についてどのような感想を持ちましたか？

本日のシンポジウムを出席前と終了後で、意見を変えましたか？

		シンポジウム参加後					比率	変化数
		正しい	どちらかといえば正しい	わからない	どちらかといえば懐疑的	懐疑的・否定的		
シンポジウム参加前	正しい	12	8	3	1	0	24	24.5%
	どちらかといえば正しい	1	24	2	3	1	31	31.6%
	わからない	2	1	12	0	0	15	15.3%
	どちらかといえば懐疑的	0	3	1	16	2	22	22.4%
	懐疑的・否定的	0	0	0	1	5	6	6.1%
合計		15	36	18	21	8	98	
比率		15.3%	36.7%	18.4%	21.4%	8.2%	100.0%	

無回答:3名

## 特定生物種(恐竜、三葉虫、アンモナイト、フズリナなど)の数は繁栄のバロメータ

- 1 21世紀は人間の数の急増と激減の時代(過去1万年で最初で最後)
- 2 原因は化石燃料の発見と消費
- 3 残余は1/2; 繁栄の時代の終末期(20年)へ
- 4 今世紀は戦争の世紀
- 5 食糧争奪の時代へ

## 地球温暖化問題

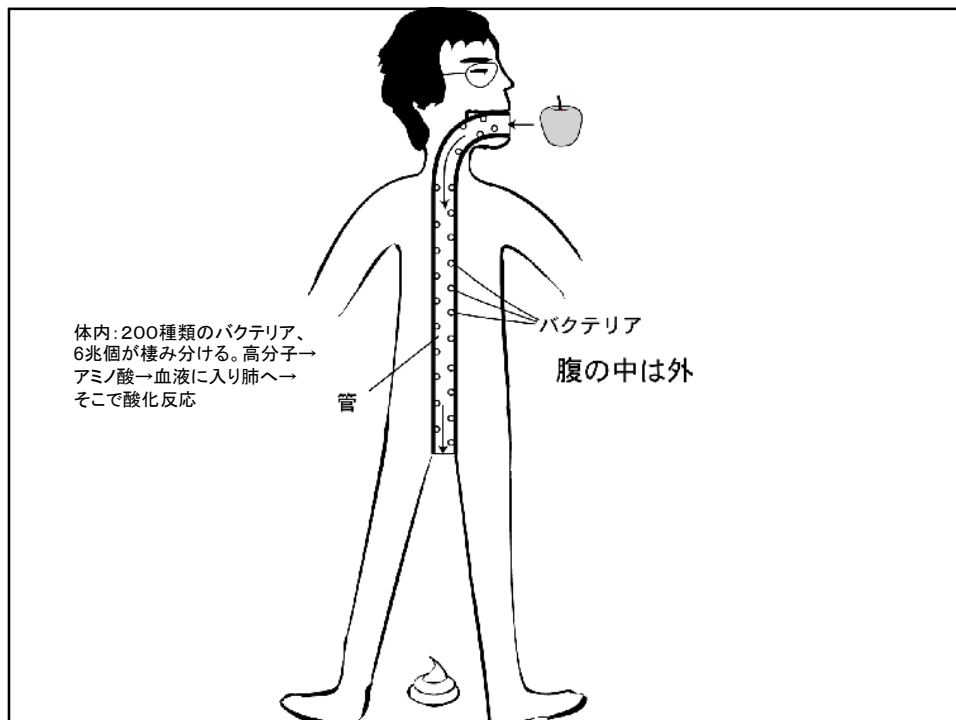
- 1 アンケート(気象学(50%が正しい、残り50%が間違いか、或いはわからない;地球惑星科学では1/3が過去50年間の温暖化を人為起源と信じ、1/3は違うと考え、1/3は解らないと考えている。21世紀の将来の気候は、温暖化なのか寒冷化なのか;殆ど人は解らないと考えている)→にもかかわらず、科学者共同体全員が正しいというIPCCの報道は何だ！
- 2 温暖化は悪いのか？ 文明と古気候を研究しているグループは異口同音に温暖化が文明を興隆させると考える。寒冷化は戦争や食糧の激減を招く。その意見が何故地球科学者に届いていないのか不思議。
- 3 現代の環境問題の本質は水と空気の化学汚染だが、実態の把握、法律規制が異常に立ち遅れている。
- 4 人間のゲノムさえ急激な変化の途上にある。

## 温暖化問題(2)

- 1 科学史的視点からは、予防原則の観点から、温暖化対策や炭素枠、炭素税などをよしとする意見(米本、池内)がある。→間違い、何故:温暖化は全体として良いからで、自然をコントロールするのは容易でなく、変化することこそ本質。
- 2 もし予防原則というならば、寒冷化対策こそ重要ではないのか？
- 3 真の背景は何か？この問題を考えるとき、2020年問題が最重要になる。
- 4 2020年問題と21世紀の世界の動向予測
- 5 化石燃料の枯渇とその対策(地球外へ)

## 水(生物最大の食糧)

- 1 人間が毎年創りだす自然界に存在しない新物質(有機、無機)は約6000種類
- 2 生物の代謝反応に与える影響
- 3 生態システムに与える影響

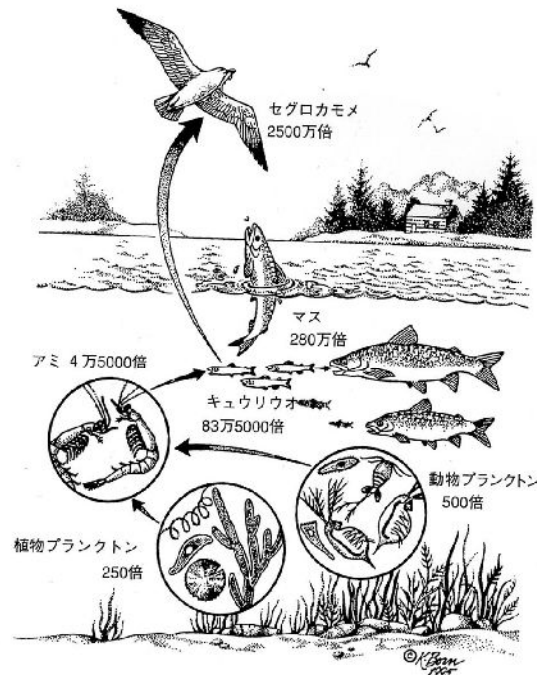


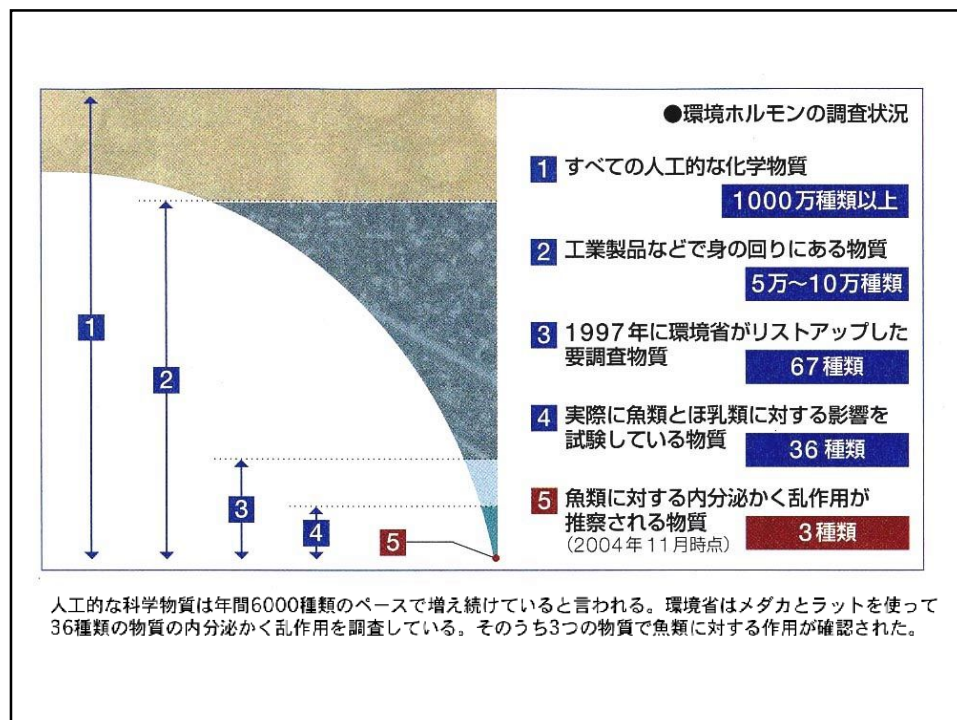
# 人間が 増えている・・・



丸山(2007)

地球システムの急激な変化  
**人間圏の異様な拡大**  
 水と空気(生物の最大の食糧)  
 の化学的汚染→人体実験





人類は生命進化の速度と方向を交え、  
微生物大爆発の化学環境を用意した



## 法律による規制

- EUによる規制 (**REACH**) ; 約2000種類の物質(これを使用した製品は輸入を拒否)
- 日本はまだ、殆ど野放し

壮大な人体実験の  
くり返し

## 微生物

- 1 生物生態ピラミッドを支える基盤(膨大な量と種類、ただし実態は不明)
- 2 全容が不明にもかかわらず、次々と新しい病気の出現(世代サイクルが著しく速い)

## 人間のゲノムの進化速度の急増

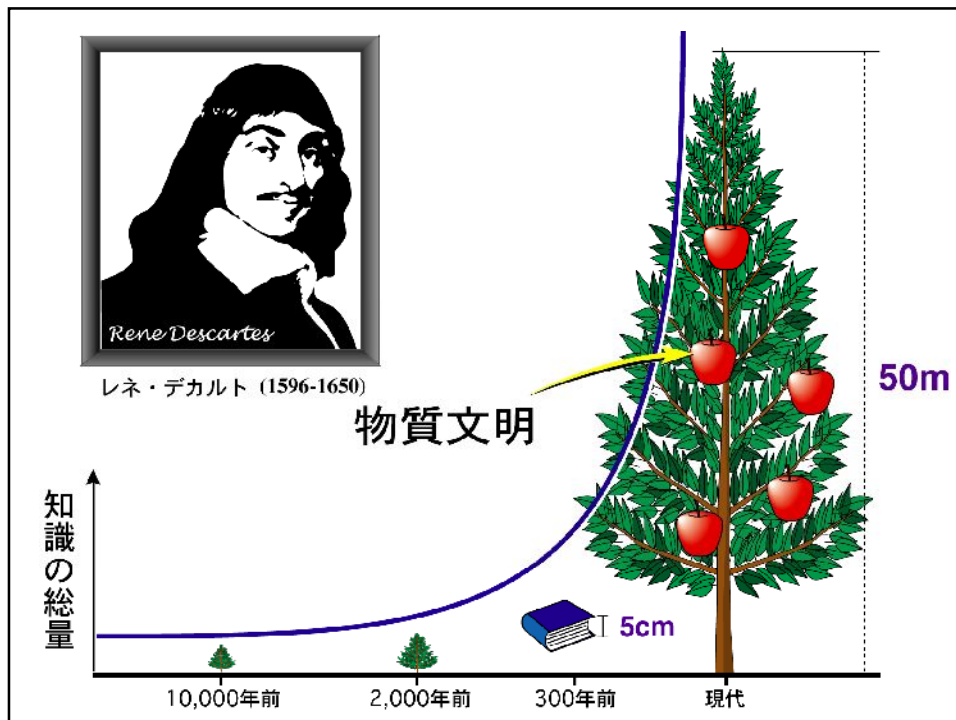
- 1 地球環境の急速な変化
- 2 とりわけ化学環境(気温ではない)
- 3 人間の地球規模の移動
- 4 バクテリアバランスの崩壊(人間は多生物共同体; 遺伝子の平行移動)
- 5 食生活の急速な変化(グルメ)

## 法律による規制

- EUによる規制 (**REACH**) ; 約2000種類の物質(これを使用した製品は輸入を拒否)
- 日本はまだ、殆ど野放し

## 温暖化問題の真相

- 1 EUの総合戦略の元で日本は翻弄されている
- 2 化石燃料の割り当て条約へ(温暖化は見かけのダメージ)
- 3 1922年の海軍軍縮条約(英米日伊仏間で日本を押さえ込む、先進国では海軍の予算が全体を圧迫、淹、2007)
- 4 ヨーロッパの戦略(枯渇する資源をどう確保できるのか):EUの死活問題→科学者共同体の利益だけでなく、日本の利益も考えなくてはならない(50%の炭素削減は日本の50%の企業が崩壊し、会社員は半減する)



## 何故頻繁に本で会議が開催されるのか？

- 1 京都宣言(京都で開催)
- 2 神戸(2008年)、洞爺湖(2008年)
- 3 神戸(2010年)
- 4 少し躊躇するとIPCCによる化石賞というバッシング！
- 4 官僚、政治家、マスコミは全て欧米追随主義

## 科学者、マスコミ、官僚、政治家が 日本を滅ぼす

- 1 組織が疲弊して分裂し、4つの共同体がそれぞれの明日の利益を優先し、日本全体の未来を世界全体の中の政治闘争として洞察できる組織がない(組織の本能)
- 2 日本人の性質((良心的)を見抜き巧妙に仕掛けられたEUの罠だろう
- 3 全地球的寒冷化は昨年から始まった
- 4 次に起きることは、冷害、飢饉、(地震)、火山噴火で、これら全てが宇宙線照射量の急増による(ミューオン)。

## 長期的施策

1. 人口の計画的縮減(世界:30－40億人、日本:4,000万人)
2. 循環型持続可能社会(化石燃料なし)の構築→環境ビジネス
3. 超政府とユニオン統合:アジア・ユニオンを牽引、  
防衛、資源の配分、食糧の配分問題など。  
ただし、その前に民主化の相当な進行が必要。
4. 軸のぶれない外交戦略の展開:例 対 ロシア, 中国
5. ヒューマニズムを超える総合的文明論の構築
6. 環境問題(空気と水の化学汚染, 6000種類の新物質/年の規制、他)の解決

## 短期的施策(日本)

1. 食糧の安定確保(備蓄)(休耕地)
2. 都市計画の見直し:“選択と集中” 例 コンパクトシティー
3. 移民・難民流入対策
4. 資源・エネルギーの安定確保  
原子力発電, クリーンエネルギー,  
資源のリサイクル(5R)
5. 科学者共同体, 代議士, 行政, マスコミ, 市民が一体となった新組織:「**100年持続可能社会学会**」設立

## 世界の動向

- 1 アメリカ、EUの二極構造からロシア、中国(両国は反自由主義国家をまとめてその頂点に立つ努力、ODAと引き換えに武器輸出、死の商人外交)の**多極構造へ**
- 2 **世界人口の効率のよい減少政策(石油エネルギーの経済的な消費;引き伸ばし作戦)→世界連合国家体制**
- 3 EUの戦略的作戦:資源の割り当て時代へ(表面的には地球温暖化脅威論→日本バッシング:最初脱落するのは日本!日本から会社が半減する日)
- 4 **世界民主主義連合**の必要性(国連が役に立たないから)
- 5 **都市の問題**(現在、世界人口の50%が都会生活、都市設計と省エネ政策)

## 対世界(そうならない為に)

- 1 エネルギー問題(**持たざる国**の宿命)
- 2 食料自給(**持続可能社会**へ、8000万人の食糧確保)
- 3 **省エネルギー政策**(2020年問題)
- 4 炭素排出枠問題(京都宣言の後始末)
- 5 軍備(**NATOの世界版:集団防衛体制**へ日本主導)

## 4 科学者共同体、マスコミ、官僚、政治家の問題

- 1 科学者共同体(欧米追随主義、科学者ではなく労働者のまま)→政府に提言できる組織体の欠如(National Academy of Science)
- 2 マスコミ(欧米追随主義、ことなかれ主義、責任の曖昧さ)
- 3 官僚(欧米追随主義、機能体ではなく共同体化、セクショナリズム)
- 4 政治家(選挙当選至上主義、明日の利益しか考えない、現世ご利益主義、マスコミに使われる政治家の出現、マスコミを使う政治家が欠如、例USA)

## 組織

- 1 学会、『100年持続可能社会学会』を作るか！
- 2 生存圏研究所(京大、東大、阪大、更に幾つか)、外国との連合体
- 3 具体的活動

## 6 活動内容の概要

- 1 国内での活動計画(54番目の学会として合流、立ち上げ、年会、会報：電子ジャーナル、事務局、会費、100-1000名、不定期シンポジウムの開催、マスコミ、産業界との接点の集会、財団との有機的連合、シンポジウム、本当のエコとは何か？)
- 2 国外での計画(AGU, EGU、地球惑星から更に拡大発展する方策、Jerry Stokes)
- 3 東京シンポジウム：地球環境問題とエネルギー問題(ノーベル財団東京支部)
- 4 人類社会の遠いゴールに対する共通理解の啓蒙
- 5 人類史1万年の危機の理解と普及
- 6 総合的文明論の構築と普及、議論の場を提供
- 7 実践はどうするーシンクタンク(USA: National Academy; 政策の提言)、周辺に新組織(環境経済学他)
- 8 近未来の人類社会の予測(過去は鍵、とりわけ古気候、天文、古文書学、中国はもう一つ重要課題、考古学者、農業、食糧問題)



## IPCCは何故間違えたのか？

- 1 古気候データの恣意的扱い(地球平均を示す気温の指標に気がつかなかった)
- 2 気温変化が急激かどうかを決める指標がなかった。
- 3 GCMモデル計算(雲)に宇宙線と地球磁場が入っていない

## 宇宙線照射量

- 複数の独立した観測から推定(+同位体、複数種、Be、C)

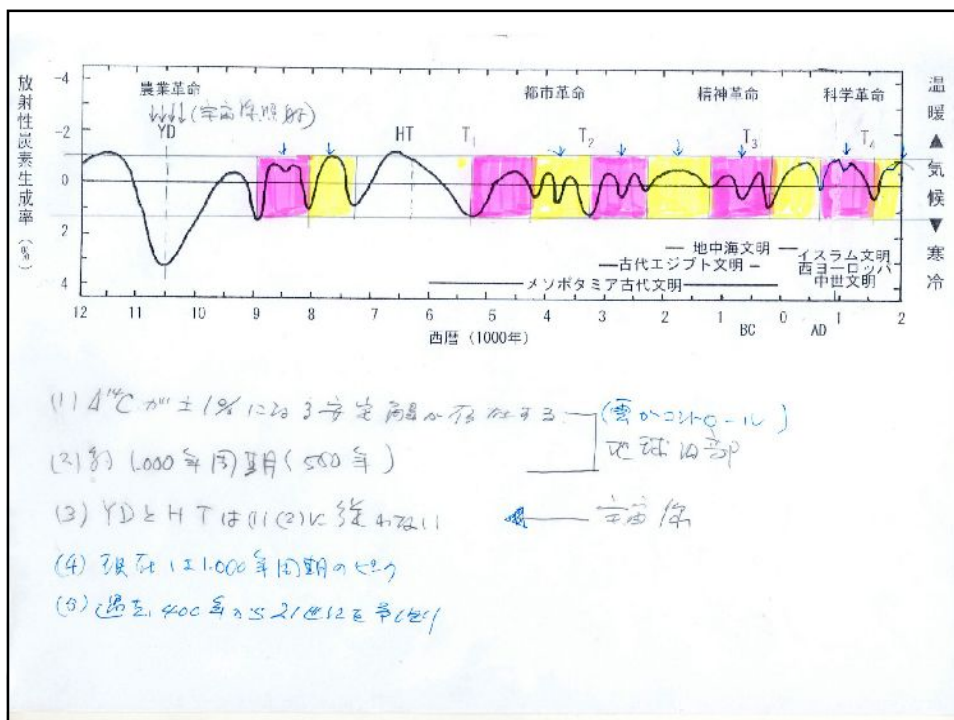
## まとめ

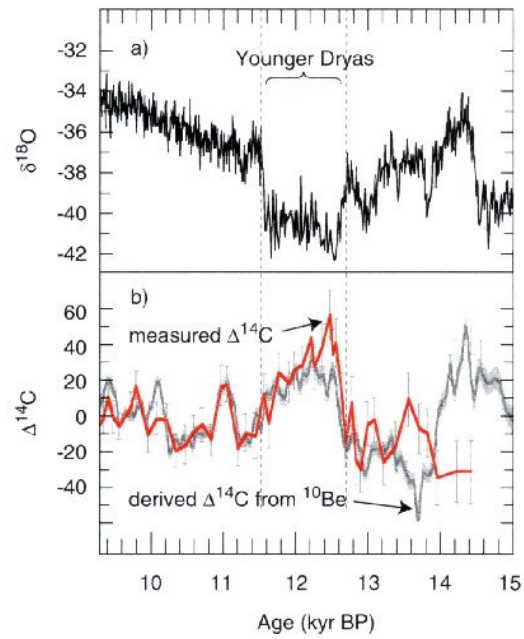
- 1 GCMが過去50年間の温度上昇を人為起源CO<sub>2</sub>以外で説明できない、というのは間違いで宇宙線起源雲の減少0.2%で説明できる
- 2 **21世紀は寒冷化の時代**、1300年周期の温暖化時代の中の寒冷期
- 3 人為起源CO<sub>2</sub>による温室効果は縄文時代のCO<sub>2</sub>量の測定から見積もることができる
- 4 これが280ppm であれば、人為起源CO<sub>2</sub>の大気中の残留があり、その温室効果は0.4℃
- 5 ただし、現在の温暖化はそれ以外の自然要因が大きく、自然要因vs人為起源CO<sub>2</sub>の割合は最大で**50－60%**
- 6 **環境問題の本質は温暖化ではない**。温暖化は歓迎すべき問題で、最重要問題は人口の**異常増加**、そしてそれがもたらせる**食糧戦争**の始まりである。そして**寒冷化が問題を加速**させる。

- 過去30年間はCO<sub>2</sub>なしでは温暖化を説明できない→宇宙線起源の雲0.2%減少で説明できる
- 宇宙線の照射量は実測だけでなく、Be10でも観測されている

# 古気温の指標問題

- 1 原理
- 2 検証1 分配係数の実測と実験
- 3 検証2 過去150年(観測と比較)
- 4 検証3 全世界で測定、木の種類を比較
- 5 検証4 花粉と比較





■寒冷化は大陸の中央部から進行する■

